Muse Spark Openがもたらす企業知財業務の変革と導入戦略

知財業務プロセスの構造的転換
(BEFORE)



人間の役割が「作成者」から
「検証者（エディター）」へ変化
（AIが資料収集・構造化・初稿作成を担い、人間は
根拠の妥当性と法的判断の審査に集中します。）

Muse Spark Open 導入戦略
(HYBRID MODEL)

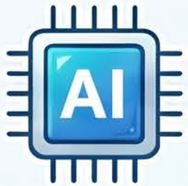
機密区分に応じたデータルーティング
（未公開発明はローカル実行、公開特許の検索は
クラウドAPIへ分離して処理します。）





LOCAL
EXECUTION

Muse Spark Open



AI



PRIMARY DB API
(e.g., 特許庁)

誤報を防ぐ「エビデンスパック」と一次情報接続
（ハルシネーション対策として特許庁等の一次DB API
と接続し、根拠公報を自動照合します。）

変革後の知財業務
(AFTER)



AI支援による効率化



ハイブリッド型は知財漏洩リスクを防ぎつつ、
時間削減とコストの最適バランスを実現します。

Gemini Notebook